

地球温暖化 防止に向けて

京都議定書の温室効果ガス削減義務期限が迫っています

1997年に京都で地球温暖化防止京都会議が開かれ、京都議定書が締結されました。この議定書の中で、先進国は、2008年から2012年の間に、二酸化炭素やメタンなど、6種類の温室効果ガスの排出量を、1990年に比べて先進国全体で5%、日本は6%以上削減することが求められています。この議定書は、世界最大の二酸化炭素発生国である、アメリカ合衆国は未だ批准していませんが、ロシアが2004年に批准したことにより、2005年2月に発効しました。これにより、日本は、来年から2012年までに削減目標を達成する義務が生じています。

日本の現状

それでは現在日本の温室効果ガス排出量削減の達成状況はどうなっているのでしょうか。2004年度のデータによると、日本の2004年度の温室効果ガスの総排出量は13億5千5百万トンで、京都議定書の基準年である1990年の12億6千1百万トンから7.4%の増加、2005年速報値では更に増加して13億6千4百万トンにも上ります。

(裏面に続きます)

日本の温室効果ガス排出状況

	1990年 (基準年)	2004年度	2005年度 速報値
合計	1,261	1,355	1,364
二酸化炭素	1,144	1,286	1,297
メタン	33.4	24.4	24.4
一酸化窒素	32.7	25.8	25.8
代替フロン3ガス	51.2	19.1	16.9

(百万トン)

表にもあるように、基準年から大幅に増加しているのは二酸化炭素です。その増加している二酸化炭素排出量の内訳を詳しく見ると、2005年度の速報値では工場等の産業部門は基準年から3.2%減、自動車、船舶等の運輸部門が18.1%増、商業、病院や学校、事業所等の業務その他部門が42.2%増、そして家庭部門が37.4%増という数字になります。つまり、最も二酸化炭素の排出量削減に取り組まなければならないのは、私たちの日常生活ということになります。

現状、日本が削減目標を達成するのは極めて厳しい状況にあります。しかし、これまで見たように私たちの日常生活には大きく改善する余地があります。それは同時に私たちの削減しようという努力で大きな変化をもたらすことができるということでもあります。皆さんも是非一度身の回りでできることを探してみてください。

おこのぎ八郎さんを支援する会

横浜市神奈川区反町1-7-1

TEL:045(323)6000 FAX:045(323)2974

E-mail: g00833@shugiin.go.jp

<http://www.hachirou.com>